

中東地域に関する祈りの課題

2007年9月21日 アシェル・イントレーター

イスラエルの安全保障

イスラエル政府がこの件に関して沈黙し続けていますが、内密で行われた空爆が確かに成功し、シリア東部の奥地で核兵器やミサイルのための物資が北朝鮮とイランから輸送されていた場所が破壊されたようです。イスラエルは、4つの異なるイスラム・ジハードの最前戦に直面しています。

1. ガザ地区のハマス
2. ヨルダン川西岸地区のテロ組織
3. レバノンのヒズボラ
4. シリア(イランとロシアから援助を受けている)

6か月前、レバノン戦争の余波や、政府高官らの汚職に対する告発を受けて、イスラエル政府は崩壊寸前でした。その状況は何とか安定しましたが、それは以下の要因によるものでした。

1. シリアに対するこの秘密作戦の成功
2. 失脚したモシェ・カツァヴ(性的違法行為で告訴されている)の代わりにシモン・ペレスが大統領として就任
3. アミール・ペレツの代わりに、エフード・バラク(前イスラエル国防軍司令長官及び前首相)が防衛大臣として就任
4. ガビ・アシュケナジがイスラエル国防軍司令長官として新しい任務に就任
5. エフド・オルメルトによる内閣の会議と討論の秩序整理

終わりの時代の預言(ゼカリヤ書 14 章、エゼキエル書 38 章)が近づくにつれ、引き続きイスラエルの安全保障のための祈りは最優先に祈るべき課題です。

宣教活動に反対する活動

ここ何週間か、特定の超正統派宗教グループがイスラエルにおけるいわゆる「宣教師」の活動を中止させるようにイスラエル政府に圧力をかけました。二つの注目すべき例として、クリスチャン・エンバシー主催の仮庵の祭りがラビによって禁じられたことや、デイスター・テレビジョンはイエス(注)やホット(注)といったケーブルチャンネルでの放送許可を通信省が取り消したことです。

訳注: イエスもホットも、イスラエルのケーブルテレビ局。

イスラエルでの自由な信仰表現が引き続き守られるように、福音派とメシアニックのグループのために祈って下さい。

大贖罪日

今日は、ヨム・キプール(大贖罪日)の始まりです。国中で多くのメシアニックのグループが、私たちの大祭司であるイエシュア(イエス)にある信仰で聖日を祝います。私たちのCongregationはエルサレムにある4つのCongregationと以下の霊的目標をもって集まります。

1. 交わりと聖霊にある一致
2. 罪の悔い改め
3. 私たちイスラエルの民の救いのためとりなす
4. イエシュアの血潮による贖いをほめたたえる
5. イエシュアの再臨を信じる信仰の宣言

どうぞこの預言的かつ歴史的な祝祭が、霊的な打ち破りと神の御国の前進の時となるようにお祈りください。

パレスチナ人伝道

私たちの友人であり、ミニストリーのメンバーである方々が、多大な敵の攻撃にも関わらず、ヨルダン川西岸地区でムスリムの人々に人道支援を行い、福音を分かち合う働きを続けています。彼らは霊的にも身体的にも攻撃されてきましたが、かつてはイスラム教徒だった信者たちが数においても信仰においても成長しています。

サラム・ファイヤド首相のもと、ファタハ新政府によってある程度安定してきましたが、ヨルダン川西岸地区ではハマスとファタハの間に争いが続いています。

これらの親愛なるパレスチナ人クリスチャンが、祈り、愛、そして財政において私たちのサポートを必要としています。